



投稿フォトギャラリー

撮影者 撮影日 撮影場所

野菊で一休み

撮影者 土井多智男さん 撮影日 平成26年6月
撮影場所 八幡宮(八幡町宮内)



久井祇園祭の獅子舞

撮影者 三浦俊明さん 撮影日 平成26年7月
撮影場所 久井稲生神社(久井町江木)



カープ電車

撮影者 古田都さん 撮影日 平成26年7月
撮影場所 本郷町船木



夏到来!

撮影者 重岡葉子さん 撮影日 平成26年7月
撮影場所 本郷町南方



投稿写真を募集

テーマ ～みはらの四季、みはら再発見、みはらの新たな観光スポット～

応募期限 8日(月)(必着)
応募資格 市内に在住か通勤・在学の人
募集枚数 1人1枚
選考 秘書広報課で選考
※投稿写真の著作権は市に帰属します。

※投稿写真は返却しません。
※広報誌で紹介できなかった写真は、市ホームページへ掲載することもあります。
申し込み 郵送またはEメールで、写真データか写真(L判サイズ)と、①撮影

者名②住所・電話番号③撮影日④撮影場所⑤作品名を秘書広報課(〒723-8601港町三丁目5番1号 ☎0848-67-6007 hishokoho@city.mihara.hiroshima.jp)へ



▲昔の農家の暮らしを丁寧に調べています

講演活動でもこうした内容を伝えている田原さん。若い世代にも故郷の良さを知ってほしい」と活動を続けます。

何頭もの牛で代をかき、棒の先に横板の付いたえぶりで田をならす。それが済むと、植え子が横一列に並び、後ろに下がりながら苗を植えていく。
昭和20年代まで三原で見られた農村の風景。こうした失われたつつある昔の人々の暮らしを調査し、記録しているのは大和町の田原開起さんです。
教員だった約40年前から、地域の民俗などを調査してきた田原さん。退職後は「自らは多くを語らない、普通に生きてきた

人々の声を残したい」と、大和町や久井町などの農家を回り、お年寄りから農作業のようすや農村に伝わる風習などを聞き取ってきました。
昭和40年代から機械化が進み、共同作業や手仕事が減った現代の農業。田原さんは、「言葉やまねることで伝えられてきた、農業や生活の知恵と技が失われている」と懸念します。
今年3月には、聞き取った内容を本にまとめました。題は「生きるために自然を克服し、必要な物は自分で作るなど、百の仕事ができたのが百姓」と敬意を込め、「百姓と仕事の民俗」としました。著書は市立図書館にも所蔵されています。



さまざまな分野でがんばる、キラリと光る人や活動を紹介します。

失われつつある農村の姿を伝えたい



昔の農家の暮らしを記録した田原開起さん